

平成23年度 学校評価最終まとめ

～学校経営計画に関するアンケート(12月)の結果から～

【重点項目】

1. ①授業改善

教科で設定した基礎・基本に関する到達目標を達成した生徒の割合を増やす。

■努力指標 授業改善が図られたと実感することができた教員の割合が90%以上

【教員－3】授業改善が図られていると実感できた。

中間 80% (実感できた 15% ・ ほぼ実感できた 65%)

最終 85% (実感できた 25% ・ ほぼ実感できた 60%)

【教員－7】自分の授業でどの程度、生徒に理解させているか。

中間 95% (十分理解させている 25% ・ まあまあ理解させている 70%)

最終 100% (十分理解させている 25% ・ まあまあ理解させている 75%)

【教員－8】魅力ある授業づくりに取り組んでいる。

中間 95% (十分取り組んでいる 25% ・ まあまあ取り組んでいる 70%)

最終 100% (十分取り組んでいる 30% ・ まあまあ取り組んでいる 70%)

□成果指標 教科で設定した基礎・基本に関する到達目標を達成した生徒の割合が90%以上

【生徒4－a】先生はわかる授業をしている。

中間 91% (思う 63% ・ まあまあ思う 28%)

最終 90% (思う 59% ・ まあまあ思う 31%) (H22 88%)

【生徒4－b】授業は楽しい。

中間 87% (楽しい 57% ・ まあまあ楽しい 30%)

最終 85% (楽しい 53% ・ まあまあ楽しい 32%) (H22 83%)

(分析)

- 教員の取組の意識も高く、生徒の満足度からも、ほぼ満足できる結果だといえるが、未だに約1割の生徒が授業に満足できていない(授業についていけない)状態が続いている。
- 生徒の満足度は高いが、テストの結果などを見ると、この結果に準ずる学力が身につけているとはいえない。
授業規律の低下や、授業や家庭(予習・復習)における繰り返し学習が不十分なのではないかと考える。特に家庭学習習慣の定着は、学力向上には欠くことのできない条件である。
- 生徒の2極化がさらに進んでいる。
- 今回のアンケートでは、直接生徒の成果指標を問う内容になっていない。

(課題・成果)

- 生徒の学習に対する意識や意欲を高めるためにも、明確に学習結果が数値として表れるように目標を設定して取り組む必要がある。
- 授業に満足していない生徒、特に理解度の低い生徒への支援のあり方を考える必要がある。特に各教科の結果(生徒が③、④と答えている場合)やふだんのテスト等の結果をふまえ、生徒の意欲を高めるための具体的な授業改善の施策を検討する必要がある。
- 授業規律に関わり、教員が意識統一できる具体的な取組についての検討が必要である。

- 授業交流が十分に行われていない。授業交流を活性化し、有意義な交流になるように教員の授業改善に取り組む意識を向上させる必要がある。

(7月以降の取り組み)

① 各教科の基礎・基本に関する到達目標の具体的な内容について再度検討する。

② 授業規律の向上

- ・ 授業に生徒全員が参加できる集団づくりを意識して、グループ活動や評価の方法（自己評価、相互評価など^{*1}）の工夫を行う。

^{*1} 生徒が自らのよい点や可能性について気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めるなど、学習の在り方を改善していくことに役立つものであることが大切です。

- ・ 授業手順の統一

(案) 1. 授業道具の準備（確認）

2. 号令「姿勢」「礼」「お願いします」 ※姿勢が悪かったり声が小さいときはやり直す

3. 本時の目標（めあて）を生徒に示す

4. 授業に参加できていない生徒へ関わる。

5. 評価をする。 ※自己評価を含めて肯定的な評価を行う。

6. 次時の学習内容を知らせる。 ※学習の見通しをもたせる。

6. 机上の整理

7. 号令「姿勢」「礼」「ありがとうございました」

③ 授業交流の継続

- ・ 授業交流の取り組みをよりオープンにし、生徒の活動を意識した改善計画^{*2}を作成し、試行する。

⇒評価（PDCA サイクルを意識した取り組み）⇒スキルアップ！

^{*2} 指導のポイント(工夫・改善)

① あいさつのできる生徒の育成

② 話し合いのできる生徒の育成

③ 考えや思いを表現（自己表現）のできる生徒の育成

④ 互いに理解し協力しあえる生徒の育成

【参考】「家庭学習ノート」の取組状況

| | 平均取組ページ数 | 1ページでも 取り組んだ人数 | ページ目標到達の割合 | |
|----------------|-----------------------|-------------------|------------|--------|
| | | | 80%以上 | 100%以上 |
| 1年(6月) (2月) | 70.3/73 ページ (96.3%) | 121/127 人 (95.3%) | 85 人 | 61 人 |
| | 270.2/278 ページ (97.2%) | 125/128 人 (97.6%) | 77 人 | 56 人 |
| 2年(6月) (2月) | 41.8/63 ページ (66.3%) | 97/135 人 (71.9%) | 51 人 | 41 人 |
| | 177.8/268 ページ (66.3%) | 124/135 人 (91.9%) | 48 人 | 36 人 |
| (昨年) | 72.8/82 ページ (88.8%) | | 76 人 | 60 人 |
| 3年(6月) (2月) | 22.1/63 ページ (35.1%) | 60/131 人 (45.8%) | 18 人 | 15 人 |
| | 114.9/268 ページ (42.9%) | 89/132 人 (67.4%) | 24 人 | 17 人 |
| (昨年) | 50.2/82 ページ (61.2%) | | 16 人 | 11 人 |

2. ③「あいさつ」の質の向上

相手が心地よく感じるあいさつを実践する生徒の割合を増やす。

■努力指標 あいさつを励行した教職員の割合が90%以上

【教員－10】相手が心地よく感じるあいさつを励行している。

中間 100% (十分している 60%・まあまあしている 40%)

最終 100% (十分している 45%・まあまあしている 55%)

□成果指標 相手の方を見て大きな声であいさつをすることができる生徒の割合が80%以上

【生徒－5】相手を見て大きなあいさつができる。

中間 88% (できている 40%・まあまあできている 48%)

最終 87% (できている 36%・まあまあできている 51%)

(分析)

- 8割程度の生徒があいさつがほぼできていると感じている。
- 教員はあいさつをよく意識して取り組んでいるが、生徒はまだ自分から積極的にあいさつをすることができていない。

(課題・成果)

- 昨年度と比較するとあいさつをする生徒は多くなってきていると感じる。
- 授業や朝会などのあいさつの声はやや小さい。
- 自発的にあいさつをする生徒を増やす。
- 生徒に長束中(集団)としての意識を持たせ、生徒の主體的な取り組み(動き)が見られるようにする必要がある。
- アンケートをとる前に教員の意識統一をする。

(7月以降の取り組み)

- ① 朝会、集会、学活、授業、委員会、部長会、部活動など機会があるごとに呼びかけを行い、あいさつを意識させて繰り返し取り組む。
- ② 生徒会執行部による、あいさつビデオを作成し放映する。
- ③ 授業規律の徹底

3. ⑦地域等との交流の充実

地域等との交流（授業や行事の公開及び地域行事への参加等の取組）状況とその成果をホームページ等で紹介する。

■努力指標 地域等との交流状況とその成果を紹介することが大いにできた。

【教員－15】地域行事への参加募集を生徒に呼びかけている。

中間 80% (十分呼びかけている 40%・まあまあ呼びかけている 40%)

最終 89% (十分呼びかけている 34%・まあまあ呼びかけている 55%)

□成果指標 地域と交流することを通して学ぶことがあったと感じる生徒の割合が90%以上

【生徒－10】地域行事へ何回参加しましたか。

中間 57% (3回以上 12%・2回 16%・1回 29%)

最終 68% (3回以上 22%・2回 24%・1回 22%)

【生徒－11】地域行事への参加や地域や校外の方々のお話を聞くなどの交流を通して何か学ぶことができましたか。

中間 58% (あった 21%・まあまああった 37%)

最終 93% (あった 57%・まあまああった 36%)

(分析)

- 地域の人との交流で学ぶことがあったと答えている生徒の割合は9割いる。
- 地域行事への参加がまだ少ない。

(課題・成果)

- 生徒の地域行事への参画意識を高める必要がある。
- ピースボランティアの扱い（名称の変更や活動母体・体制を明確にするなど）を考える必要がある。

(7月以降の取り組み)

- ① 教員側からはたらきかけが必要になる。そのために、地域行事の紹介及び参加の呼びかけを積極的に行う。 ※年度始めに行事の紹介を行う。
- ② 生徒の活動の様子や取り組んだ結果を生徒、保護者、地域等にフィードバックさせる。
 - ・ 地域交流で「学ぶことがあった」という生徒の「参加して良かった」という感想を広めていく。(広報活動の推進)
 - 集会やTVでの発表や作文の紹介を通信等で行う。
 - 写真や映像など、様々なメディアを活用し取り組みを紹介する。
 - 本館1階ホールだけでなく、生徒館にも掲示する。
- ③ ピースボランティアについては、取り組みをプロジェクト(実行委員会)化するなど、推進組織を検討する。

【その他の短期経営目標】

②家庭学習習慣の定着

家庭学習を週5日以上行っている生徒の割合を増やす。

■努力指標 家庭学習を促すための具体的な手だてを講じた教員の割合が90%以上

【教員－4】生活ノート・学習ノートの提出率を高めるための指導・点検をした。

中間 90% (十分指導した50%・まあまあ指導した40%)

最終 75% (十分指導した30%・まあまあ指導した45%)

【教員－5】家庭学習ノートの提出率の向上や家庭学習の日数が増えるように指導・点検した。

中間 85% (十分指導した50%・まあまあ指導した35%)

最終 85% (十分指導した30%・まあまあ指導した55%)

□成果指標 家庭学習を週5日以上行っている生徒の割合が90%以上

【生徒－1】1週間の家庭学習の取り組み(ほぼ毎日取り組んでいる)

中間 57% (毎日34%・週5～6日23%)

最終 58% (毎日34%・週5～6日24%) (H22 59%)

【生徒－2】1週間の家庭学習ノートの取り組み(ほぼ毎日取り組んでいる)

中間 39% (毎日24%・週5～6日15%)

最終 38% (毎日18%・週5～6日20%)

【生徒－3】1週間の生活ノートの取り組み(ほぼ毎日取り組んでいる)

中間 69% (毎日52%・週3～4日17%)

最終 59% (毎日40%・週3～4日19%)

【保護者－1】1週間の家庭学習の取り組み(ほぼ毎日取り組んでいる)

中間 62% (毎日39%・週5日程度23%)

最終 62% (毎日39%・週5日程度23%)

(分析)

- 教員の生徒に取り組ませようとする意識はあるが、それを受けての生徒の取り組みの割合が低い。
- 家庭学習ノートの取り組み(提出率)が学年が上がるにつれ極端に低下している。

(課題・成果)

- 保護者の家庭学習に対する意識を高め、協力してもらえるように呼びかけることが必要である。
- 自主的に学習に取り組むことの大切さに気がつき、具体的な取り組みができるようにすることが大切である。

(7月以降の取り組み)

- ① 生活ノートは毎日チェックを行う。(家庭学習の状況確認)
- ② 家庭学習ノートの取り組みを促す。
 - ・ 取り組みやすいように課題を準備する。
 - ・ 個人ではなくクラス毎に取り組む方法もある。
⇒ 期間を決めてクラスマッチ形式で行う。(総合点や目標達成者の人数)
※ 周りの者に声を掛け合う取り組みになる。
- ③ 家庭学習に取り組んでいる生徒の学習成果との関連を分析し、生徒、保護者に公開し、生徒の意識向上と保護者の協力を促す。

④ルールやマナーをわきまえた生徒の育成

「生徒のマナーが良くない」との外部からの連絡件数を減らす。

■努力指標 年間を通して主体的に下校指導に参加した教員の割合が90%以上

□成果指標 「生徒のマナーが良くない」といった外部からの連絡が0件

【教員－12】生徒は学校のきまりを守っていると思うか。

| | | | |
|--------|----|-----|-------------------------------|
| a. 身なり | 中間 | 95% | (十分守っている 25% ・ まあまあ守っている 75%) |
| | 最終 | 85% | (十分守っている 20% ・ まあまあ守っている 65%) |
| b. 時間 | 中間 | 90% | (十分守っている 25% ・ まあまあ守っている 65%) |
| | 最終 | 85% | (十分守っている 5% ・ まあまあ守っている 80%) |
| c. 不要物 | 中間 | 90% | (十分守っている 35% ・ まあまあ守っている 55%) |
| | 最終 | 90% | (十分守っている 50% ・ まあまあ守っている 40%) |

【教員－13】生徒は登下校で交通ルールやマナーを守っていると思うか。

| | | |
|----|-----|-------------------------------|
| 中間 | 80% | (十分守っている 10% ・ まあまあ守っている 70%) |
| 最終 | 75% | (十分守っている 15% ・ まあまあ守っている 60%) |

【生徒－7】学校のきまりを守ることができていると思うか。

| | | | |
|--------|----|-----|-------------------------------|
| a. 身なり | 中間 | 94% | (十分守っている 77% ・ まあまあ守っている 17%) |
| | 最終 | 94% | (十分守っている 72% ・ まあまあ守っている 22%) |
| b. 時間 | 中間 | 94% | (十分守っている 56% ・ まあまあ守っている 38%) |
| | 最終 | 93% | (十分守っている 59% ・ まあまあ守っている 34%) |
| c. 不要物 | 中間 | 98% | (十分守っている 82% ・ まあまあ守っている 16%) |
| | 最終 | 97% | (十分守っている 87% ・ まあまあ守っている 10%) |

【生徒－8】交通ルールやマナーを守って登下校している。

| | | |
|----|-----|-------------------------------|
| 中間 | 99% | (十分守っている 78% ・ まあまあ守っている 21%) |
| 最終 | 97% | (十分守っている 78% ・ まあまあ守っている 19%) |

(分析)

- 全体的に結果はよい。
- この結果が生徒の実態にあっているかということ、良くない部分も現実にある。
- 生徒は交通法規を守っている意識はあるがモラルやルール、マナーはわかっていない。

(課題・成果)

- 生徒の意識と実態が一致していない部分について、指導していく必要がある。
- 教職員の生徒指導に関わる意識統一が必要である。全ての教職員が学校としての取り組みを理解することが大切である。何事もやりきる姿勢が必要である。
- 個別対応をどうするか。

(7月以降の取り組み)

- ① 具体的指導を学年会でも確認し、修正も兼ねて討論する。
- ② 下校指導時に、坂道まで教員を配置する。 ※下校指導の徹底を図る。
- ③ 登下校中の状況を生徒に見せて、実態から自らの行動を考えさせる機会を持つ。

⑤命(人生)を大切に作る生徒の育成

学校での人間関係は良好であると思う生徒の割合を増やす。

- 努力指標 生徒間の人間関係に注意を払い、生徒間の良好な人間関係づくりに努めた教員の割合が90%以上

【教員－11】生徒間の人間関係を意識し、良好な人間関係づくりに努めている。

中間 100% (十分努めている 40%・まあまあ努めている 60%)

最終 100% (十分努めている 35%・まあまあ努めている 65%)

- 成果指標 学校での人間関係は良好であると思う生徒の割合が90%以上

【生徒－6】周囲の人との人間関係が良好だと思いますか。

中間 69% (思う 52%・まあまあ思う 17%)

最終 59% (思う 40%・まあまあ思う 19%)

(分析)

- 「命(人生)を大切に作る生徒の育成」の項目はアンケートからは直接出てきていないが日々の道徳、総合などでそれぞれ取り組んできている。

(課題・成果)

- これまでも継続して、命の学習への取り組み、平和学習、進路学習として道筋を作って取り組んできている。
- 各取り組み後の感想等を集約すると、成果はある程度出てきているように思う。目立ったいじめや荒れはあまり見られない。より生徒の実態にあったタイムリーな教材をしっかりと選んで探していきたい。

(7月以降の取り組み)

- ① 生徒の心に響く教材や視聴覚メディアなどの発掘に取り組む。
- ② 3.11大震災などに関連して「命の学習」で使える教材を探していきたい。

⑥教育相談の充実

不安や悩みがあった時、相談できる周囲の大人や友人がいる生徒の割合を増やす。

- 努力指標 生徒の不安や悩み等を受け止め対応するように努めた教員の割合が90%以上

- 成果指標 不安や悩みがあった時、相談できる周囲の大人や友人がいる生徒の割合が90%以上

【教員－14】生徒の不安や悩みを受け止め対応するように努めている。

中間 100% (十分努めている 30%・まあまあ努めている 70%)

最終 100% (十分努めている 35%・まあまあ努めている 65%)

【生徒－9】不安や悩みを相談できる大人や友達がいる。

中間 92%

最終 88%

(分析)

- 教員の意識も高く、孤立している生徒の割合も低い。

(課題・成果)

- アンケート結果に反映されていない不登校生徒等への対応が必要である。
- 約1割の生徒は相談できる大人や友達がない状況を意識して必要がある。

(7月以降の取り組み)

- ① 予防的生徒指導を意識し、今後も継続して取り組んでいく。